
資料 1 : 報告資料

2(1) 前回議論の整理

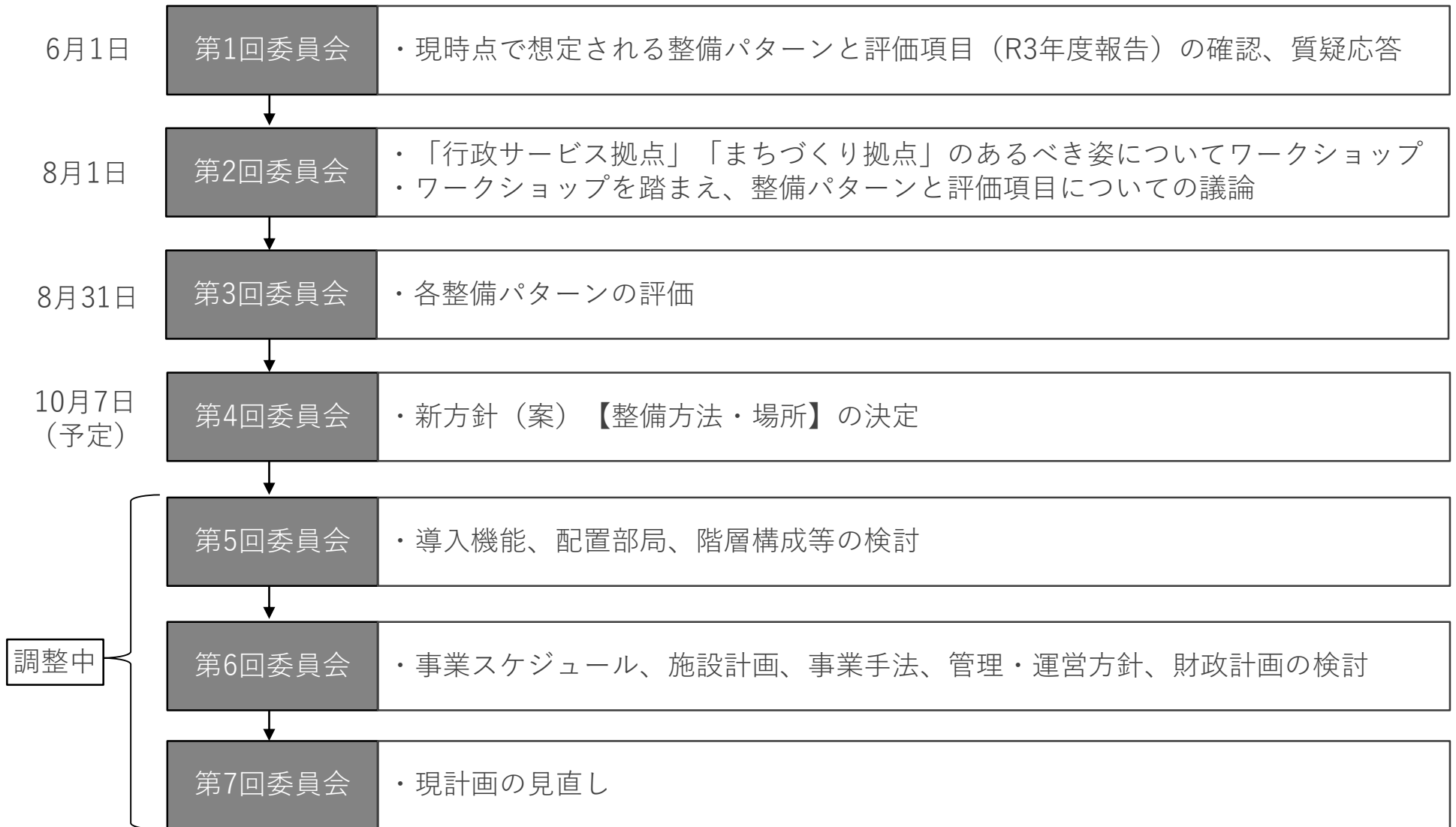
第2回委員会意見の整理

ワークショップの成果を受けて、本事業のあるべき姿、整備パターンの評価の視点について様々な意見があった。

| 分類 | 意見の概要 | 備考 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 将来変化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> □ 将来の見通しが立たない状況下においては投資タイミングを判断する余地を残す視点も重要。(黒瀬委員) □ ライフサイクルや長期目線での様々な投資も考慮すべき。(恒川委員長) | |
| 未来志向 | <ul style="list-style-type: none"> □ 現状の改善だけではなく、未来志向の視点(子や孫の世代にも十分使えるものであるか)。(牛場委員) □ 将来は税収の減少が想定されるので、今、整備の方向性を検討することが必要だと感じる。(伊東委員) | |
| 歴史、愛着 | <ul style="list-style-type: none"> □ 清水の歴史的な背景、住人でないとわからない思い、愛着、といったものを観点に入れてほしい。(関委員) □ 様々な意見を取り入れて、現庁舎の場所を検討の対象とすることはよいことであると思う。(田宮委員) | |
| 空間の有効利用 | <ul style="list-style-type: none"> □ 新清水庁舎ならではの新たな挑戦・起爆剤として、空間の有効利用という観点から公的施設の中に民間施設を入れる、あるいは民間施設に公的機能を埋める工夫により、新しい人を呼び込む仕掛けを庁舎に設け、清水の歴史や文化をベースとした新たな賑わい創出が期待できる。(小豆川委員) □ 都市公園や公民の複合施設では、テナントで収益を上げることを稼ぐ仕組みとして取り入れている。テナントを入れた場合にどの程度収益が上がるのかを視点として入れることも重要。(牛場委員) | |
| アセットマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> □ アセットマネジメントは、清水庁舎単体ではなく市の公共施設全体の視点も重要。(恒川委員長) □ 機能分散を検討する場合に、清水のまちづくりとの親和性の高い機能や既存施設の使用であれば、コスト増はあまり想定されない可能性もある。(恒川委員長) | |
| 行政サービス | <ul style="list-style-type: none"> □ DXが進行する中、それぞれの場所または市全体でどのような働き方をするのか。(恒川委員長) □ DXが推進した場合も、対面の窓口・コンシェルジュ機能、職員1人1人の人材育成が重要。(石垣委員) □ フリーアドレス的な働き方ができる環境を作るべき。(石垣委員) | |
| まちづくり | <ul style="list-style-type: none"> □ まちづくりの拠点として、公民連携や市民参加が重要な位置付けになる。(堀川委員) □ 既存施設や外閣団体も含めて、清水区役所を拠点としたまちづくりに連携して取り組むべき。(堀川委員) □ 清水はみんなが使えるスペースが少し少ない。(石垣委員) | |
| 減築改修 | <ul style="list-style-type: none"> □ 減築による改修案が成立する場合、コストも非常に安いのであれば、かなり有力な案になる。(加藤委員) □ 減築の場合、単純に上階を削って改修しただけでは建物として成立しない可能性があり、どのようなプランがあり得るのか様々な検討が必要。(恒川委員長) | |

※ワークショップ意見のまとめ(行政サービスの拠点/まちづくりの拠点としての清水庁舎のあるべき姿)は別紙「参考資料1」のとおり

清水庁舎整備検討委員会の検討スケジュール（R4.8.31時点）



※現時点での想定する検討スケジュールであり、今後、委員のみなさまの意見等により変更する可能性があります。